

研究課題	確かな学力を身に付けた生徒の育成
副題	「主体的・対話的で深い学び」における ICT の活用を通して
キーワード	確かな学力、主体的・対話的で深い学び、思考力・判断力・表現力、ICT の活用、情報活用能力
学校/団体名	宮崎県小林市立東方中学校
所在地	〒886-0001 宮崎県小林市東方 3094-2
ホームページ	<a href="https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4406/htdocs/">https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4406/htdocs/</a>

### 1. 研究の背景

現代は科学技術の加速度的な進化にともなう産業の変化などにより、地球規模の環境変動や新型コロナウイルスに代表される病気との戦いなどが引き起こされ、社会構造や日常生活が急激に変化している。よって、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちにおいては、予測できない状況に対応して自立して生きていく力を身に付けさせる必要があると考えた。

### 2. 研究の目的

研究の背景を踏まえ、本校では以下の3点を研究の目的とし、研究実践を行うことにした。

- (1) 全教科並びに全教育課程共通して実践できる「主体的・対話的で深い学び」を生む学習過程（単元や授業構成）を構築する。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を生む学習過程を効果的に実践するための ICT（電子黒板、タブレット PC、授業支援ソフトなど）活用の在り方の工夫に取り組む。
- (3) 生徒の情報活用能力や思考力・判断力・表現力を向上させるための手立ての工夫に取り組む。

### 3. 研究の経過

研究の目的を達成するために、以下のような概要で研究の取組を進めました。

年度	月	研究実践内容
令和元年度	4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究主題と副題、研究組織及び研究の方向性の共通確認。</li> <li>● 東方中学校における「確かな学力」、「主体的・対話的で深い学び」の定義についての検討と共通理解。</li> <li>● 東方中学校における研究の全体構想図の作成と共通理解。</li> <li>● 研究組織の構成と主な研究内容の計画の作成及び共通理解。</li> <li>● 「川崎市版中学生情報活用能力チェックリスト」をもとにした、東方中学校の生徒の実態を踏まえた「情報活用能力チェックリスト」の検討と作成。</li> <li>● 文部科学省の「情報活用能力体系表」をもとに、東方中学校の生徒の実態を踏まえた「情報活用能力体系表」の検討と作成。</li> <li>● 令和元年度第1回訪問および授業研究会の実施。</li> </ul>

令和元年度	7月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東方中学校における各教科の特性を踏まえた「主体的・対話的で深い学びを生む学習構成表」と「主体的・対話的で深い学びにおける ICT の活用法」の検討と作成。</li> <li>● これまでの実践から見えてきた ICT 関係トラブルや改善点の整理。</li> <li>● 定期的かつ計画的な ICT (電子黒板、タブレット PC、授業支援ソフトなど) の活用法についての研修会の実施。</li> <li>● 「東方中学校における情報活用チェックリスト」を用いたアンケート調査による生徒の情報活用能力の把握。</li> <li>● 小林市立東方小学校と連携した、小・中 9 年間を見通した情報活用能力体系表および情報活用能力チェックリストの作成。</li> <li>● 令和元年度第 2 回訪問および授業研究会の実施。</li> </ul>
	1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報活用能力チェックリストを用いた生徒の情報活用能力の変容把握。</li> <li>● 令和 2 年度研究の方向性についての検討。</li> <li>● 「主体的・対話的で深い学びにおける効果的な ICT の活用」を実践するための指導案形式の検討と作成。</li> <li>● 東方中学校の研究内容に関する各種定義の再検討と明確化。</li> <li>● 令和元年度第 3 回訪問および授業研究会の実施。</li> </ul>
令和 2 年度	4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和 2 年度研究の方向性の確認と共通理解。</li> <li>● 定期的かつ計画的な ICT 研修会の実施。</li> <li>● Zoom を用いた令和 2 年度第 1 回授業研究会の実施。</li> </ul>
	7月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「総合的な学習の時間における問題発見・探究学習」の検討と単元学習構成の構築。</li> <li>● 各教科の授業や行事における ICT を活用した実践。</li> <li>● 定期的かつ計画的な ICT 研修会の実施。</li> <li>● 情報活用能力チェックリストを用いた生徒の情報活用能力の変容把握。</li> <li>● Zoom を用いた令和 2 年度第 2 回授業研究会の実施。</li> <li>● 「みやざき学習状況調査」過去問題を用いた生徒の「思考力・判断力・表現力」の変容把握。</li> <li>● Zoom ウェビナーを用いた遠隔研究公開の実施。</li> </ul>
	1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報活用能力チェックリストを用いた生徒の情報活用能力の変容把握。</li> <li>● 12 月に 2 年生で実施された「みやざき学習状況調査」の結果を用いた「思考力・判断力・表現力」の変容分析。</li> <li>● Zoom を用いた令和 2 年度第 3 回授業研究会の実施。</li> <li>● 令和 3 年度研究の方向性についての検討と原案作成。</li> </ul>

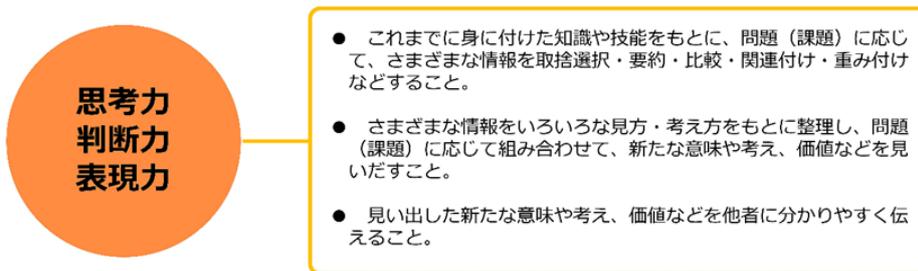
4. 代表的な実践

(1) 東方中学校における「確かな学力」に関する定義の明確化について

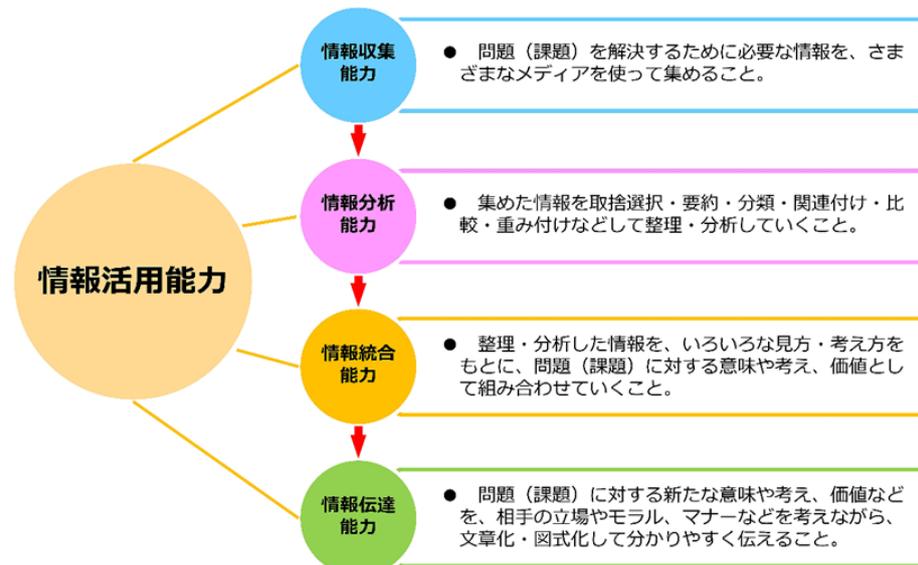
研究を進める上で、研究主題の「確かな学力」や「主体的・対話的で深い学び」など、研究に関する重要キーワードについて定義を明確にし、全職員で共通認識をもつことが必要だと考えた。そこで、本校の研究に関する重要キーワードを図式化し、以下のように定義した。

**本校における「確かな学力」のとらえ → 予測できない状況に対応して自分を律し自立して生きていく力**

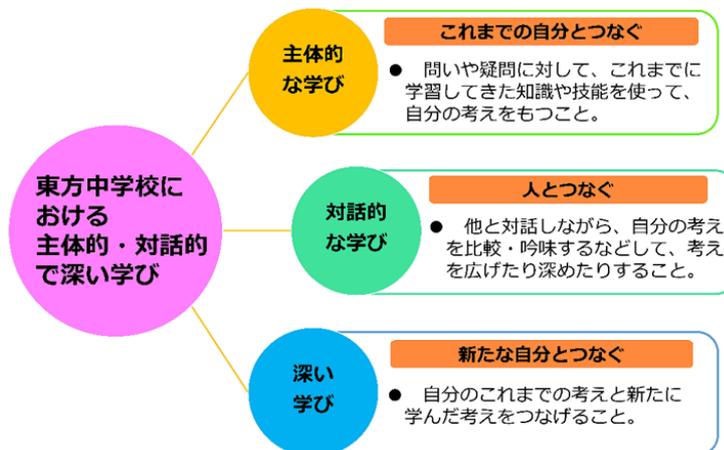
東方中学校における思考力・判断力・表現力の定義図

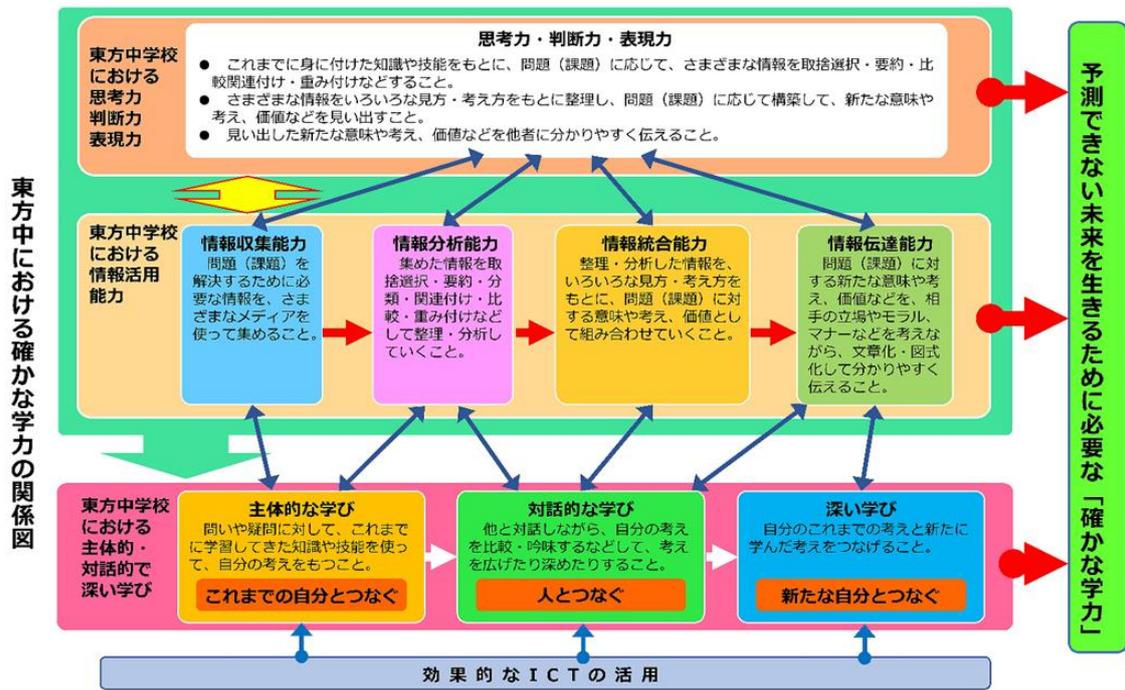


東方中学校における情報活用能力の定義図



東方中学校における主体的・対話的で深い学びの定義図





**東方中学校総合的な学習の時間における「問題発見・探究型学習」の定義**

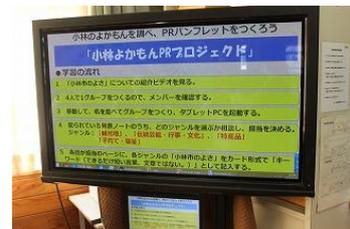
- 生徒は設定されたテーマにそって、自分で考えて学習課題を設定する。
- 生徒は学習課題を解決するために、個人で考えたり協力したりして様々な活動を行う。
- 生徒は学習した結果を個人やグループで様々な方法を用いて発表する。

(2) 研究公開について

本校は、令和2年12月11日に、2年間の研究実践や成果と課題を広く波及させることを目的として研究公開を行った。昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響で、直接参加していただくことができず、Zoom ウェビナーを用いた遠隔研究公開となった。

視聴していただいた授業は、2年生総合的な学習の時間で、内容は小林市独自の地域教材（こすもす科：小林市シリーズ）の「小林市のよさって何？」であった。授業の実施にあたり、事前に単元の学習過程や内容を、本校の生徒の実態と本校の「問題発見・探究型学習」の定義に沿って練り直した。

単元の始めの段階では、生徒たちにタブレット PC と授業支援ソフトを用いて、「観光地」、「伝統・文化」、「特産品」、「歴史・史跡」のジャンルの中から「小林のよさ」をキーワードとして画面に書き出させた。そして、ジャンルごとに4人1組のグループをつくらせ、タブレット PC の画面を共有させ、キーワードを整理させた。



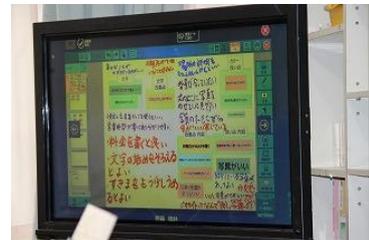
次の段階では、整理された「小林のよさ」に関するキーワードから1人1つキーワードを選ばせ、選んだキーワードをPRするためのパンフレットをPowerPointで作成させた。PRするために必要な情報はインターネットや本、パンフレットなどの各種メディアを用いて集めさせた。



次の段階で、生徒1人1人が作成したパンフレットを印刷し、中間発表会を行った。中間発表会では、ジグゾー法やワールドカフェの学習形態を用いて、「対話的な学び」の活動を中心に、お互いによい点や改善点をタブレットPCの授業支援ソフトを用いて書き出させた。最後はパンフレット作成者に、書き出されたよい点や改善点をタブレットPCと授業支援ソフトを用いて整理させ、内容を全員の前で発表させた。



最後の段階では、中間発表会での評価をもとに、1人1人の生徒にPRパンフレットの内容を練り直させた。

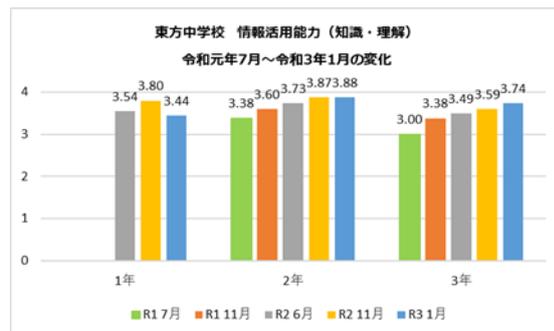


これらの学習活動を通して、生徒たちは自ら学習するテーマを選び、ICT機器を使いこなしながら、対話的な活動を通して、相談したり、協力したりしてPRパンフレットを作成していった。本校が目指す「確かな学力」を生徒が身に付けることができた実感させる学習活動であった。

## 5. 研究の成果

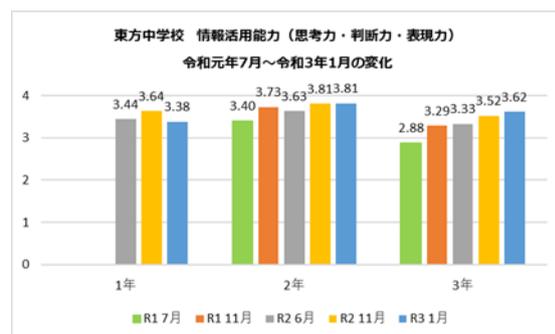
研究主題にある「確かな学力」は、本校では「情報活用能力」と「思考力・判断力・表現力」を合わせたものと定義している。そこで、

「情報活用能力」については、研究で作成した「情報活用能力チェックリスト」の変容を用いて検証した。また、「思考力・判断力・表現力」については、宮崎県が毎年実施している「みやざき学習状況調査」の活用問題（思考力・判断力・表現力を問う問題）を用いて、経年変化で検証した。以下がその結果と分析である。



### (1) 情報活用能力について

情報活用能力チェックリスト各分野の満点は4点であるが、グラフより、2年間の研究期間を通して全学年、全分野とも値が向上傾向にあるか、高い値を維持している。



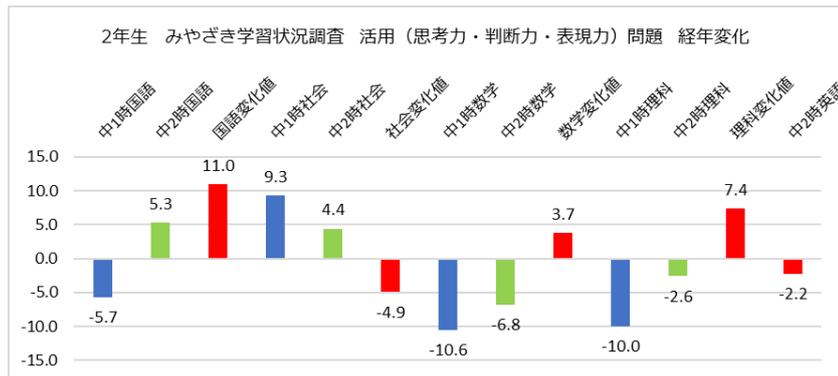
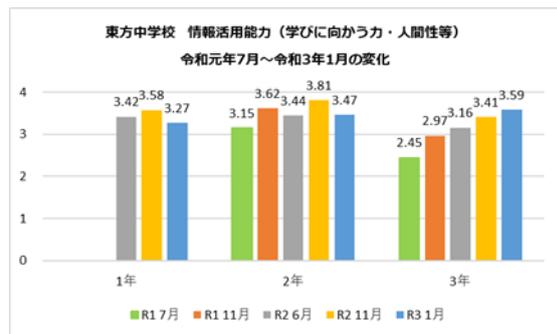
このことから、研究実践を通して生徒の「情報活用能力」を向上させることができたと考えられる。

(2) 思考力・判断力・表現力について

青のグラフが中学1年時の県平均との差で、緑のグラフが中学2年時の県平均との差、

赤のグラフが2年間の県平均との変化値である。英語については中学1年時に調査がなかったため、中学2年時の県平均との差のみ示している。結果を分析すると、「思考力・判断

力・表現力」が向上した教科とそうでない教科があり、ばらつきが見られた。



6. 今後の課題・展望

2年間の研究の成果と課題を踏まえ、全職員で次年度研究の方向性を検討したところ、以下の原案を作成することができた。

- これまでの研究実践を生かし、研究主題はこれまでと同じく、「確かな学力を身に付けた生徒の育成」とすること。
- 研究を2年間で言い、これまでに研究で取り組んできたICTの活用を基本とすること。
- 研究1年目は、ICTを効果的に活用し、各教科における生徒の基礎的な学力（知識・技能など）を向上させる研究を行うこと。
- 研究2年目は、1年目の成果と課題を踏まえ、ICTを効果的に活用した、各教科または総合的な学習の時間における問題発見・探究学習に取り組むこと。

上記の原案をもとに、令和3年4月の校内研修で再確認を行い、次年度の研究を推進していきたい。

7. おわりに

本研究期間を振り返ると、定期人事異動で2年目に職員11名中7名が入れ替わったり、新型コロナウイルス感染症で長い期間臨時休業になったりと、学校や社会全体で変化の大きい2年間だった。また、次年度からも大きな変革の波が訪れる。このような中で、多くの方々に指導・支援していただきながら、生徒の学力向上や職員の資質・能力向上の研究に携われたことは、本校職員にとって素晴らしい経験となった。